鴎外記念館のこと

永井荷風

青空文庫

森鴎外先生の記念館が先生の健在中その居邸の立つてゐた駒込千駄木町十九番地に建てられると云ふことで、わたくしは文京區　長井形卓三氏、また建設委員會事務長代理中出忠勝氏の訪問を受けた。二氏はわたくしに一日も早く森先生に關する文章を書いて新聞か雜誌に載せて貰ひたいと言はれた。記念館の建築費は千五百萬圓ほどになるさうで、此の金額の寄附を募集する趣意書やら何やら、いづれも印刷せられた文書を見せて頂いた。こゝでわたくしは森先生の事について何か書いて見なければならないことになつた。

然し先生の傳記また著書に關する事は文壇諸名家の手に成るものが既に少なからず世に公にされてゐる。又わたくし自身も、先生の舊著の改版されるたび〳〵出版商の依頼を受けて解説のやうなものを書いた事があつたので、今更改めて筆にすることは殆ど無いと云つてもいゝやうに思はれる。

わたくしが始めて先生の謦※（けいがい）に接することを得たのは、明治三十三四年頃先生の戯曲玉篋（たまくしげふ）兩浦島（たりうらしま）が伊井一座の新派俳優によつて市村座の舞臺で演じられたのを見に行つた時であつた。その時先生は雜誌明星の主筆與謝野寛やその雜誌に關係のある人達と共に見物席に來て居られたので、幕間にわたくしは雜誌の人から紹介されたのであつた。それから一二年の後わたくしは西洋へ行き五六年過ぎて歸つて來た。彼地で上田敏先生と親しくなつた。

上田先生は古くから森先生とは交際があつたので、わたくしは上田先生をたよりにして始め

て千駄木のお屋敷へお目にかゝりに行つた。明治四十一年時分の事で、その頃には丁度森先生のところには常盤會の歌會につゞいて觀潮樓歌會が開かれたり、又雜誌スバルが創刊されやうといふ頃なので、夜晩くまでいろ〳〵お話を伺ふことができた。

それから間もなく、明治四十三年になつて、先生は慶應義塾からの依頼を受け大學部文科の顧問になられ、わたくしを文科の教授に推薦して下さつたので、わたくしは學課の事やら雜誌三田文學を創刊すること抔から、絶えず御意見を伺ふ爲め、電話でお話もするし、又陸軍省の御出勤先へもお目にかゝりに行くことが出來るやうになつた。文科の教授に就いて先生の御意見によると、教科書に使ふものは凡て西洋で出版された書物を選ぶがいゝ。學生は始めの中は讀みにくいからいやがるかも知れないが、早くから西洋のものを見馴れさせて置くと、後になつてから一生役に立つから其人の爲になると言はれたのをわたくしは記憶してゐる。

わたくしが三田の教場に出てゐたのは大正四年までの事で、教場ばかりでなく三田文學の編輯もしてゐたので、毎月先生の創作を頂戴して雜誌へ載てゐた。先生の作物はスバルと三田文學との外には見られなかつたので、其頃文壇の呼物となつてゐた。スバルが廢刊して「我等」になつたのはわたくしが三田をやめてから後の事であらう。

大正五年に先生は軍職を退かれ、二年ほどして後上野の博物館長になられたが、この間に先生の歷史物または考證文學は遺憾なく完成された。日々新聞に連載された澀江抽齋、伊澤蘭軒、北條霞亭などいふ儒家の傳記である。

大正七年の暮博物館長になられてからは、帝諡考、元號考の如き純粋な考證の外に著作は見られなかつたが、大正十年の冬與謝野寛が再び雜誌明星を創刊した時、先生は第一號から「古い手帳から」の原稿を與へられたのみならず、「奈良五十首」の短歌を寄せられ、又同雜誌の編輯相談會が大正十年の十月頃與謝野寛の家に開かれた時には出席されて、わたくし等と雜談された事があつた。然しその頃から追々健康を害して居られたらしく、翌十一年の夏には全く望が無かつた。

青空文庫情報

底本：「荷風全集第十五巻」岩波書店
1963（昭和38）年11月12日第1刷発行
1972（昭和47）年4月5日第2刷発行
初出：「毎日新聞（大阪）」
1959（昭和34）年5月1日
※底本のテキストは、著者自筆原稿によります。
入力：菜夏
校正：きりんの手紙
2019年1月29日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（https://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

鴎外記念館のこと

永井荷風

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　https://aohelp.club/
BiliBili　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/